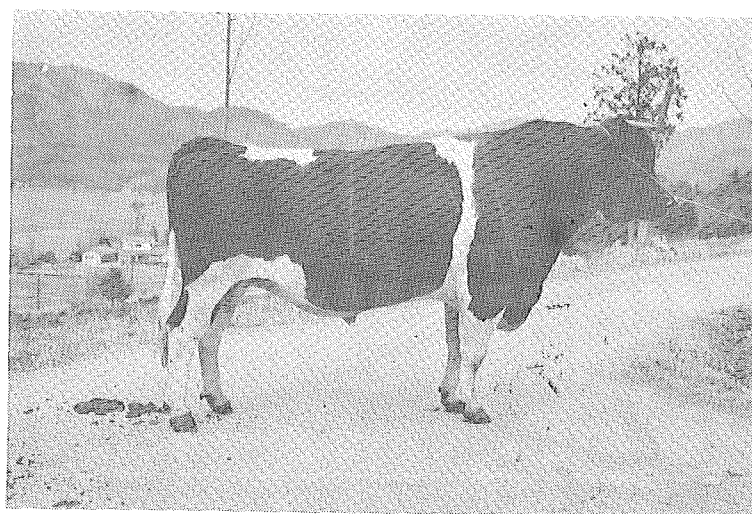
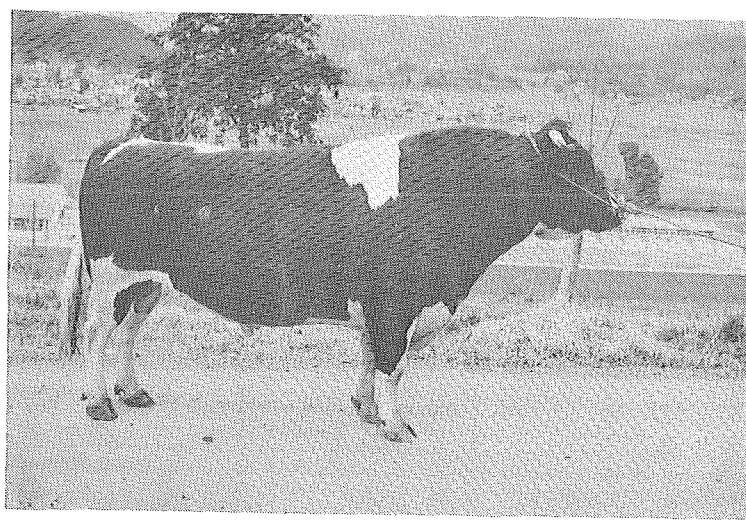


岡山県酪農試験場

繋養種雄牛の概要



バンドマスター サー ヘンドリック バイオレット



キング ダavidson オレーター

乳用種雄牛の性能について
酪農振興を図るためには、乳用牛の改良増殖を積極的かつ効率的に実施することが必要であり、また改良種雄牛の占める役割は極めて大であることは言をまたないところであります。この種雄牛の性能を早期に知るため性能調査事業を行ない効果を上げております。

すが、この度、紙面をお借りして、その結果の判明したもの、および各専門農協、関係団体等の協力で、遺伝能力を調査したのものについて逐次報告しますので、皆様の種雄牛選択の参考にして下さい。

VII バンドマスター サー サードリック バイオレット

No 37720 HACJ
生年月日 昭和36年11月18日
体格得点 86.5点
産地 静岡県

1 血統

父
カーネーションローヤルバンドマスター
祖父
カーネーションローヤルマスター
祖母
カーネーションスカイラクヴァイオレット

母
ヘンドリックジェマイドンマラソン
祖父
第23スプリングパークジェマイマフェン
祖母
SNSヘンドリックプラスドン

体格得点 77.0点
2年型300日3回
総乳量 6,360.8kg
総乳脂量 210.3kg
乳脂率 3.31%

体格得点 81.5点
2.5年型30日4回
総乳量 1,070.0kg
総乳脂量 35.89kg
乳脂率 3.35%

5 高等登録得点配分

(1) バンドマスターサーヘンドリックバイオレット

(審査月令5才1月)

品種の特徴	肩背	尻	頸き甲助腕腿	皮膚被毛	丸	乳頭乳静脈	前肋胸	肋腹	前肢	後肢	計
	86	88	89	87	86	85	87	87	85	84	865

(2) 娘牛

ア 昭和43年春期娘牛4頭の平均

品種の特徴	肩背	尻	肢蹄	頸き甲助腕腿	皮膚被毛	前肋胸	肋腹	乳房		乳静脈	計		
								容積と形状	乳頭				
	79.5	77.3	77.3	75.5	77.8	78.3	78.8	79.3	79.5	76.3	76.0	77.8	77.9

イ 昭和43年秋期娘牛2頭の平均

品種の特徴	肩背	尻	肢蹄	頸き甲助腕腿	皮膚被毛	前肋胸	肋腹	乳房		乳静脈	計	
								容積と形状	乳頭			
	77.0	76.0	76.0	76.0	78.0	76.0	76.0	79.0	75.0	74.0	77.0	76.7

2 経歴

本牛は静岡県田方郡で繁殖され、昭和三十八年十一月から供用開始し、昭和四十三年三月までに延べ三、二六六頭に授精を行なった。

3 特徴

資質良好、背腰も強く性質温順体各部の伸びに優れ、体積に富み、尻の形状も良く前軀も良く充実しているが、頸および顔の品位がやや悪い。

4 体各部の測定値

下表のとおり

体重 1,176kg (6才6月)

体高	160.6	100とした比	尻長	65.0	40.4
十字部高	154.7	96.3	腰角巾	65.7	40.9
坐骨高	152.6	95.0	腕巾	64.2	39.9
体長	206.8	128.7	坐骨巾	46.2	28.7
胸深	87.7	54.6	胸囲	248.5	154.7
胸巾	62.6	38.9	管囲	24.0	14.9

6 泌乳能力

調査中

(2) 好ましくない形質
飛節がやや高く、乳房の容積と形状、乳頭にばらつきがある。

7 子牛への遺伝力

(本調査は各組合へ雌牛体型資質調査を依頼しとりまとめたものである。)

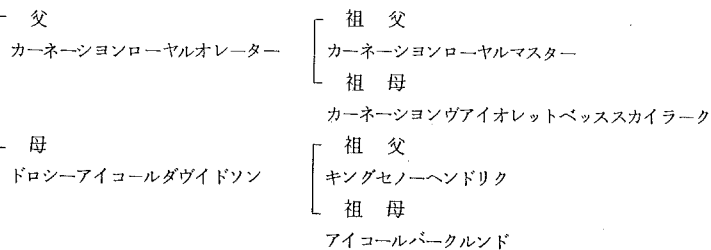
(1) 好ましい形質

品位、資質良好で体積に富み、皮膚被毛繊細で前肋胸、肋腹とにも良く乳房の質が良い。

VIII キング ダavidson オレーター

No 37619 HACJ
 生年月日 昭和37年2月10日
 体格得点 86.0点
 産地 北海道

1 血統



体格得点	78.0点	78.5点
2才11月305日3回	2才2月365日3回	
乳量 7,355.5kg	乳量 8,780.0kg	
乳脂量 296.9g	乳脂量 329.1g	
乳脂率 4.04%	乳脂率 3.75%	
3才11月365日3回	5才5月365日3回	
乳量 9,176.7kg	乳量 10,644.7kg	
乳脂量 378.1g	乳脂量 385.6g	
乳脂率 4.12%	乳脂率 3.62%	

5 高等登録得点配分

(1) キングダavidsonオレーター

(審査月令5才3月)

品特種	肩背	尻	頸	皮	乳	前	肋	前	後	計
種	背	腰	脇	膚	乳	肋	腹	肢	肢	
の	腰	腰	脇	被	頭	胸	腹	肢	肢	
徴	腰	腰	脇	毛	頭	胸	腹	肢	肢	
	88	86	86	87	85	85	84	87	85	86
	88	86	86	87	85	85	84	87	85	86.0

(2) 娘牛

ア 昭和42年春期娘牛3頭の平均

品特種	肩背	尻	頸	皮	乳	前	肋	乳	房	乳	計
種	背	腰	脇	膚	乳	肋	腹	質	容	乳	
の	腰	腰	脇	被	頭	胸	腹	質	形	頭	
徴	腰	腰	脇	毛	頭	胸	腹	質	状	頭	
	77.3	76.3	75.7	75.0	78.0	77.7	76.7	77.0	78.0	75.7	76.7
	77.3	76.3	75.7	75.0	78.0	77.7	76.7	77.0	78.0	75.7	76.7

イ 昭和42年秋期娘牛5頭の平均

品特種	肩背	尻	頸	皮	乳	前	肋	乳	房	乳	計
種	背	腰	脇	膚	乳	肋	腹	質	容	乳	
の	腰	腰	脇	被	頭	胸	腹	質	形	頭	
徴	腰	腰	脇	毛	頭	胸	腹	質	状	頭	
	77.0	76.0	75.8	74.6	77.2	76.4	76.2	76.6	78.2	75.4	76.2
	77.0	76.0	75.8	74.6	77.2	76.4	76.2	76.6	78.2	75.4	76.2

ウ 昭和43年春期娘牛4頭の平均

品特種	肩背	尻	頸	皮	乳	前	肋	乳	房	乳	計
種	背	腰	脇	膚	乳	肋	腹	質	容	乳	
の	腰	腰	脇	被	頭	胸	腹	質	形	頭	
徴	腰	腰	脇	毛	頭	胸	腹	質	状	頭	
	76.8	76.0	75.5	76.0	77.3	78.3	77.8	77.5	78.5	76.0	77.3
	76.8	76.0	75.5	76.0	77.3	78.3	77.8	77.5	78.5	76.0	77.3

2 経歴

本牛は北海道空知郡で繁殖され、昭和三十八年三月本県に導入、昭和三十八年六月から供用開始し、昭和四十三年三月までに延べ一二、六六二頭に授精を行なった。

3 特徴

品位に富み性質温順で体各部の伸びが良く体積に富み、前軀の充実も良いが皮膚被毛や粗剛で後肢がやや弱い。

4 体各部の測定値

下表のとおり

体	重	1,135kg	(6才3月)		
体高	154.5	100と比	尻長	63.0	40.7
十字部高	149.6	96.8	尻腰	66.2	42.8
坐骨高	145.2	93.9	尻腕	60.2	38.9
体長	199.6	129.1	尻坐骨	42.2	27.3
体深	89.3	89.3	胸囲	247.5	160.1
胸巾	66.3	42.9	管	24.5	15.8

エ 昭和43年秋期娘牛7頭の平均

品	種	肩	背	尻	頸	皮	乳	前	肋	乳	房	乳	計
種	背	腰	脇	脇	膚	乳	肋	腹	質	容	乳		
の	腰	腰	脇	脇	被	頭	胸	腹	質	形	頭		
徴	腰	腰	脇	毛	頭	胸	腹	質	状	頭			
	76.7	76.4	76.1	75.7	77.6	77.4	76.3	77.1	78.1	76.1	75.6	77.7	76.8
	76.7	76.4	76.1	75.7	77.6	77.4	76.3	77.1	78.1	76.1	75.6	77.7	76.8

6 泌乳能力

調査中

(1) 好ましい形質
 品位、資質良好で体積に富み、肋復良く開張し、股間広く内腿良く切れ上がり、乳房の質が良い。
 (2) 好ましくない形質
 尻の形状、特にせん骨高く乳頭にばらつきがある。

7 子牛への遺伝力

(本調査は各組合へ雌牛体型資質調査を依頼しとりまとめたものである)

乳用雄子牛肥育牛の事故多発と予防対策について

岡山県畜産会事務局長 蔵知 毅

最近乳用雄子牛の肥育が盛んになり、各地で多頭化飼養が見られるようになってきたが、反面飼養期間の延長に伴い、各種の事故が多発している。

先般、岡山県農業共済連合会で調査したものと、四十三年度四月十一日の統計で三八九頭の死産事故が発生(死亡一六二頭、廃用二二七頭)し、その内訳は、

急性鼓脹症	一九、八%
骨折	一一、三%
尿石症	一〇、〇%
胃腸炎	七、四%
食中毒	四、六%
その他	四六、九%

岡山県畜産課が事故の多発している肥育地帯の四家畜保健衛生所(岡山、和気、笠岡、高梁)管内の、事故のあった牧場について調査をした結果は次のとおりである。

飼養戸数	六四戸	飼養頭数	一、七五六
頭、のうち事故率	七、九%	事故牛	一三九頭
うち、内訳は			
敗血症	三二、四%		
急性鼓脹症	一九、四%		
尿石症	一一、五%		
胃腸炎	七、二%		
胃節炎	四、三%		
胃カタル	四、三%		
骨折	三、六%		
その他	一七、三%		

廃棄が多くなり問題となってきた。このため県が中心となり、経済連、農業共済連、畜産会等で事故対策につき、当面の問題について協議した結果、次のような指導方針が決められたので参考にされたい。

- 一、去る一月三〇日、畜産会主催の乳用雄子牛肥育研修会で、岡大和田教授の発表された岡大方式は第一回の予備試験の成績であり、なお本試験を実施中であるので、その結果発表をまとめて改めて検討することにした。
- 二、当面多発している事故に対しては、次のような予防対策を指導することになった。

(一) 敗血症の症状と 予防対策

肥育の仕上げ時期に発生する例が多く、特別な症状は認められないが、食欲不振が起り、突発的に死亡することが多い。

三月号目次

乳用雄子牛肥育牛の事故多発と 予防対策について 蔵知 毅………3

第二回全国和牛能力共進会 開催について 全国和牛登録協会………6

だより 酪試◇ 繁養種雄牛紹介………1

試験場 農試◇ 卵用鶏雛の飲水量について………14

カナダ・アメリカ旅行記(八) ナガイ・ハナオ………8

牧場研修 阿蘇の噴煙をながめながら 出田義国………11

第二回全国和牛能力共進会開催

昭和四十四年五月

(和牛登録協会)
九州鹿児島市で

1 開催の趣旨

この度全国和牛登録協会主催をもって、昭和四十四年七月から同四十五年五月中旬にかけて十カ月余の長期にわたる第二回全国和牛能力共進会を開催することに決定いたしました。

この共進会開催の目的は、「和牛の経済能力なかならず産肉能力の向上を一化を推進し、もって本邦の飼育環境に適した肉用種の完成を期する」にあります。和牛の経済能力として考えているものは、産肉能力、繁殖能力、遺伝能力、泌乳能力、役用能力、飼料の利用率および発育などであり、近年役用能力以外のものを主としてとりあげて、登録事業と育種事業とによってその遺伝的改良を図ってまいりました結果、その成績は最近とくに目をみはらせるものがあります。これはご承知のとおりであります。しかし「わが国の飼育環境に適し、かつ市場性の高い独特の肉用種を完成する」ために

は、一方遺伝的改良を前述の如く全国足並を揃えて行なうべく同時に、他方においては右の目的達成のために、それぞれの地方において育成飼養管理の研究を手を携えて行ない、生産費を安くしつつ市場価値の高いものをつくる努力をしなければなりません。

この為には各道府県別々に行なうよりも、同一目的を達成する為、計画的に同時にとりかかり、相提携し、連絡をとって努力するのが今日の状況下においては最も効果的であると考えます。かかる共同目的をもつ共同研究を、この度の共進会において実行してまいりたい。そして、これによってわが国独特の肉用種の完成を図り、その生産経営を軌道に乗せたいと考えておるしであります。

かく考えてまいりますと、この共進会の意義は重かつ大であると申せましょう。すなわち従来行なわれたような、単に外貌体型によって優劣を競うものではなく、和牛をわが国の諸条件に適する独特の肉用種としてその経済能力の向上を一化を図り、かつその生産経営を各地において

それぞれ軌道にのせようというものであります。その為には、この共進会の中核となつて働くものは共進会本部における審査および事務関係者のみならず、われわれの最も期待するものは参加各道府県の出品委員の方々であります。この出品委員の努力、協力がなくては、この共進会の成果を挙げるわけにはゆきません、と同時にまたこの方々の努力とその研究によって、当該道府県における今後の和牛の改良増殖とその経営に対し驚くべき影響を生ずること必至であると考えます。かかる重要な出品委員会の結成については、参加各道府県に対し最善の考慮を払われるようお願いすると共に、本会としてもできるだけの努力と協力をおしなさいと考えております。

今回の共進会においては、従来よりも団体的出品につき考慮いたしました。これは今後の和牛の生産、飼育経営が漸次、共同的、あるいは一部協業的傾向にあるものとの判断に基づくものであります。以上が今回われわれが企図している全国和牛能力共進会の狙いであり、全国的な和牛関係者がよくこの趣旨を理解されまして、既に北は青森県から南は鹿児島県におよぶ三十一府県が参加の意思を表明され、その参加予定頭数は実に約四、五〇〇頭に達する状況であります。このような空前の大規模にしてかつ画期的な構想に基づく共進会は、他にその例もなく、まさに今日の和牛の新しい飛

躍を表徴するものであります。

ここに本共進会開催の意義を諒承せられ、参加各府県はもとより、関係各方面ならびに一般のご協力を広くお願いいたします。

2 共進会の期間

この共進会の期間は、昭和四十四年七月一日より同四十五年五月十五日までとし、会期を分けて第一期、第二期および第三期とします。

第一期および第二期は昭和四十四年七月一日より同四十五年五月十日までとし、出品牛の飼育現地において現地個体審査をします。第三期は昭和四十五年五月十一日より同月十五日の五日間として、鹿児島市において集合比較審査をします。

第1類 種牛	第1類 若牛	性別	生年月日	その他の条件
第1区	黒毛和種	雄	43.9.12 ~ 44.2.11 (生後20ヵ月以上 20ヵ月未満)	所定の発育基準に合致し、 父母、祖父母とも登録牛である
第2区	〃	〃	43.5.12 ~ 43.9.11 (生後20ヵ月以上 24ヵ月未満)	同 上
第3区	〃	雌	43.9.12 ~ 44.2.11 (生後15ヵ月以上 20ヵ月未満)	同 上
第4区	〃	〃	43.5.12 ~ 43.9.11 (生後20ヵ月以上 24ヵ月未満)	同 上

第2類 育種登録、高等登録
第1区 黒毛和種 雌 44.2.11以前
(生後15ヵ月以上)
育種登録または高等登録の頭牛2頭と、その母牛1頭とをもち、その父は異なる

第3類 繁殖雌牛群
第1区 黒毛和種 雌 42.5.11以前
(生後36ヵ月以上)
経産登録牛7頭以内をもち、最終比較審査への出品は各群5頭とし、生産小組合(旧市町村単位)範囲の出品とする

第2部 肉牛
第1類 産肉能力検定
第1区 黒毛和種 去勢 43.9.24 ~ 43.11.22
種雄牛およびその子6頭を比較し、最終5頭と登録証をもち、乳中脂肪率を測定する

第2類 若令肥育群
第1区 黒毛和種 去勢 43.11.12以後
(生後18ヵ月未満)
同一種雄牛の産子6頭以内を比較し、最終3頭と登録証をもち、生後7ヵ月未満に去勢されたもの

第3類 理想肥育
第1区 黒毛和種 去勢 43.5.12以後
(生後24ヵ月未満)
子牛登録証をもち、生後7ヵ月未満に去勢されたもの

3 出品について

この共進会の出品は種牛および肉牛とし、種牛は本会正会員、肉牛は本会正会員または準会員の所有するもので、黒毛和種、無角和種および褐毛和種の本会登録牛または登記牛とします。

出品申込頭数は、出品条件を備えかつ本共進会の目的にかなうものならば制限しません。ただし、第三期集合比較審査時には種牛約一四〇頭、肉牛約七〇頭とします。なお参考出品として種雄牛約一〇頭を予定してあります。出品の区別と資格はつぎのとおりであります。

新しい養鶏のフィルムを購入しました。どうぞご利用下さい。
『鶏1生理と伝染病』

映画で勉強しよう

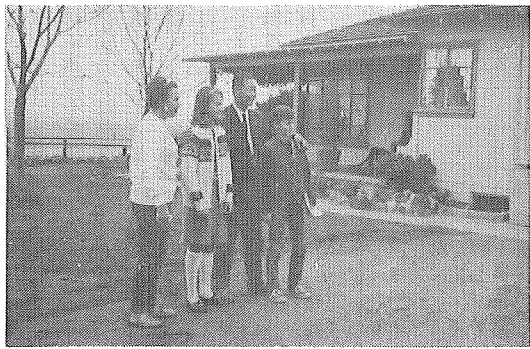
貸出料一本一、〇〇〇円
フィルム名
酪農 酪農経営の改善、乳牛のエサと栄養障害、牛の栄養と消化
養鶏 成功する養鶏経営、養鶏経営の改善
草 上手な牧草の作り方と利用、水田に草を作る人々
申込先 岡山市桑田町一の二
社団法人 岡山県畜産会
電話 (岡山) 二二一八五七五

『明日をひらく酪農』

二〇年の苦闘のすえ、酪農の理想郷を開いた歴史の映画。新しい実践技術を紹介。

化血研の
動物用 ワクチン・血清・診断液

財団法人 化学及血清療法研究所
熊本市古京町3番1号 53-6331
事務所=東京・大阪・長崎 支所=阿蘇鹿児島



マウリス・ケツチャ宅前で

19 印象に残っている

農場

(1) マウリス・ケツチャ農場
この牧場は、カリフォルニア中央部フレズノとハンフォードの二つの町の間、国道から東にはいったところのリードリーという田舎町があるが、この近くにあり、この地帯はカリフォルニアの新果樹地帯といわれている。オレンジ、ブドウの産地で、平坦地から内陸寄りの山岳地にはいったところである。

彼ケツチャ氏の住宅は、やや高台につくられ、見はらしのよいところで、家に接してオレンジ園があり、当時(二月一日)黄金色のオレンジがタワワに実をつけていた。また、この住いから遙かにホワイトニー山(四、〇〇〇メートル級)が望まれ、山頂は万年雪に覆われ非常に美しく感じられた。

彼の経営は耕地四三〇エーカー、果樹園五〇エーカーを耕作し、外に採草放牧地一〇〇エーカーをもち、乳牛は五〇〇頭が飼われ、うち搾乳牛二〇〇頭をもち、この経営は主人と見るからにファイトにあふれている奥さんと、専門の

アメリカ・カナダ旅行記

(その八)

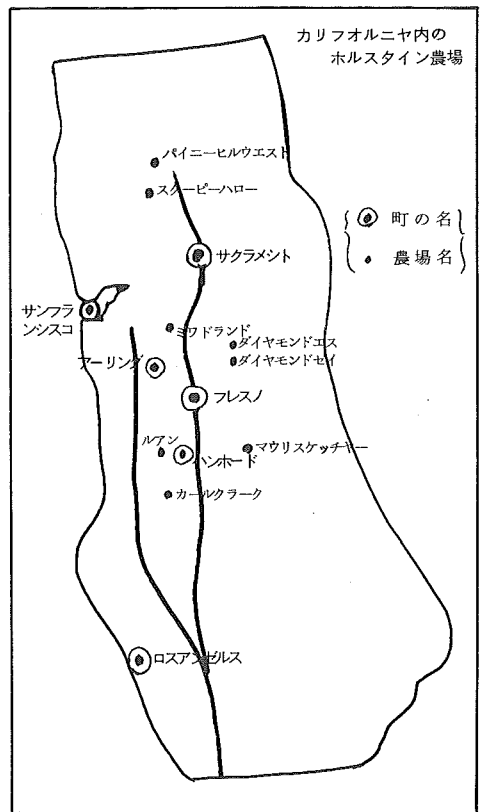
ナガイ アンド ハナオ

搾乳雇用者に加え三、四人で、耕作と牛飼を行っている。牧場は家から少し離れたところに建られ、牛乳は二日一回ローリによって会社に運ばれている。

ここでの購買でありがたかったことは、外の農場はたいがい広いパドックの中で牛を選ぶので、かけ足で牛の逃げるのを追かけて検査をしなければならぬが、幸いコンクリートの地盤を囲っている中で一頭ずつよく見て選べたことである。

住宅は廻り廊下付きで鉢植をおき、家族が家庭的で感じのよいうちだった。彼は子福者で、男三人女一人の子供があり、次男はレスラーで新聞にもせられたことを誇りとしていた。

彼は航空兵で口は重いほうだが、聞けば東京爆撃に参加した一人だと、申し訳ないことだと恐縮していた。趣味は狼を好み、数丁の鉄砲を架けていた。この裏山にはガラガラ蛇が住みついているそうである。



このような田舎町で日系婦人に出会うことは珍らしいことである。

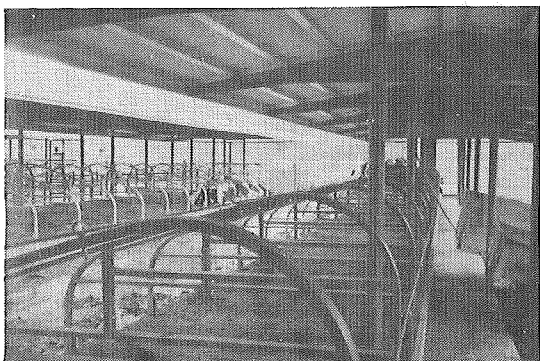
なお牛乳は牛乳会社と年間契約をしており、牛乳価格は一升八五円で売っている。またルーサンは購入給与し、人工授精は主人が行っていた。

(2) パイニーヒル・ウエスト農場



サンフランシスコから北方六〇マイルの地点にサンタ・ローザとカリスタガという町の間にあたる場所にフランズ・バレーというブドウ園、その他の果樹園地がある。そこを通り、次第に山あい縫って進み、アパッチの住居跡と思われるところを更に行くとき帯に山火事のとが見られ、やがてやや広い平坦地が山中に拓けるところにパイニーヒル・ウエスト農場がある。山の面積三万町歩といわれ、この農場の持ちもとなつてい。

我々が面接した婦人は、四〇代がらみで色眼鏡に赤いストラップ姿のみるから



パイニーヒル・ウエスト牛舎内部

にハリキリマダムである。この女主人こそ農場を一手に切りまわしている経営主でもある。主人のほうは温厚物腰の静かな紳士で、彼は電子工学関係出身(機械屋さん)でニューヨークに会社をもち、金持ちで主にニューヨークに住んでいる。

この農場の誇りとするのは、美しい山にかこまれた中で自然を生かして設計(主人の設計によるといわれる)されており、農場内部が一環性をもち、流れ作業となつて手順よく労働ができるように設備されていることである。事務所から搾乳室、牛舎、大型サイロ、これ等がうまくかみあっている。

牛舎は長く主線につくられ、それが軽い傾斜をもつておる。牛舎洗滌水が一杯所に貯えられて、必要とするときボタンを押すとこの傾斜通路いばいに水がたぎって洗い流すので、そこ等の糞尿はこの水流でいっせに取り去られ、舎内はあつという間にきれいに掃除がされる仕組みである。この汚水が自動ポンプによって放牧地に散布されて土地を肥沃にする。

ミルクパーラーは、作業員にとつて搾乳が早く終り、牛の保護もできるような科学的につくられたもので、牛もよく乳を出すことができる。先ず牛体を足、腹、乳房等洗い乾かし、搾乳される。牛乳は自動的に生産量がはかられ、牛の搾乳量にあった飼料が与えられる。ここで『ヘイキューブ』を与えている。これはルー

の乾燥を四角い形(タテ、ヨコ何れ飼養ができ、衛生費がかからず、何れの

① 飼料と労働の節約ができる。
② 糞尿の掃除が完全にされ、蚊蠅の発生を防ぐ。

③ より清潔で牛の健康が保たれる。
④ 更に即時施肥で土地を肥やせる。建物は金属建築物で、健康な牛として

部門でも労力の節約ができ、加えて牛乳の質がよく味をよくする。夫妻そろって日本観光もしたといっていたが、本宅は我々がアメリカ・カナダ農場で見た家では最も豪壮なもので、家の裏山から滝が落ちるようになり、前には大きな池をつくり、全体が公園といったものであった。銀のトックリでわかれた日本酒をフルマわれ、一行は夫妻に感謝し、パイニーヒル・ウエスト農場を後にした。

(3) カーネーション農場

サンフランシスコからワシントン州のシアトルに向う。所要時間は一時間四〇分。シアトルの町は水辺の町と呼ばれ、西北にオリンパス山、東南にレーニア山を控えている。太平洋岸のロスおよびサンフランシスコに次いで第三の港である。ワシントン湖にかかるフローテング・ブリッジ浮橋は余りにも有名で、全長三キロメートルに及んでいる。風光明媚・空気のうまい町とカーネーションの案内氏は話してくれた、ここも日系人の多い町といわれており、町の人口は六〇万近い都市である。

シアトルから鹿の住む山を一つ越すと(道路に鹿が出るので気をつけると標示がされている)平坦な平野にでると、一昨年(四十二年)大雪のあと洪水が出たことなども聞いた。

シアトルから自動車で一時間で美しい

白ペンキの放牧欄、赤屋根一色に白壁の建物の並ぶカーネーション牧場に着く。この農場は日本で最も知られているもので、地名もカーネーションとつけられている。一八九九年ミルグ・ブランド、一九一〇年イ・エ・スタート氏によって乳牛農場が創設されてから、アメリカホル種の代表農場として輝かしい歴史をつづけている。一九一七年北海道町村農場にか千葉県(一九二二年)に種雄牛が導入され、また近くは一昨年家畜改良事業団の手でアルトラ・レイブン・ノービリティ



カーネーションの功勞牛
セジス・ピーターチェ・プロスペクト号の立像

イ・ノーベル号が入れられている。あの有名なカーネーションの功勞牛セジス・ピーターチェ・プロスペクト号(一九三〇—一九二五年)の大きな立像が事務所の近く建てられている。この農場の面積四〇〇エーカー余、道路によって牛舎、事務所等の建物と放牧地とを別けている。

先ず事務所に行くと、さすがにこれまでの輝かしい歴史とその伝統を誇る数多くの賞品がうす高く陳列されている。この農場での代表種雄牛カーネーション・ロイヤル・マスター号、のさきにはカーネーション・マドキャップ・バタポイがいた。世界チャンピオン雌牛セジス・ピーターチェ号の記録は乳脂量一、四〇〇ポンド乳量一六、五〇〇コトといわれている。

農場内をマネージャーのホール氏に案内されたが、印象づけられたのは前記ロイヤル・マスターの母親、功勞牛レック・フィールド・フオーブス・デライン号一八才?老牛を起して見せるのに、さも、種物にさわるようにまた心から長年の功勞をいたわるよう時間をかけ静かに指先で皮膚をくすぐるようにして立たせた。この気持が名牛をつくりだすのでなかるうか。

カーネーションの三人男

農場は酪農部の外に肉用部(ヘレホード・ショートホーン、シャロレー、アングス)、その他園芸部門(庭園花卉)、および試験研究部門に別れている。この農場で日本人青年が八人実習生として働いている。国際農学会からの派遣が三人、酪農部の三人は横浜市出身で麻布獣医

科大学出の(昭和四十年出)広瀬君と北海道室地北村牧場の後継者となる中曾根君(帯広畜産)、今一人は兵庫県淡路からきている小西君という方々であるが、この実習生の多くは北海道の一流農場で何年か研究生として過した者で、小西君は町村農場で七年の経歴をもち、中曾根君は宇都宮農場でそれぞれ鍛えた連中で、牧場主の推薦によってきたのである。

若者三人トリオも昨年で三年の年期を終るので帰国することになるといつていた。北村君はトップで、我々の購買牛第一船護送船で、カーネーションで求めた一頭の後継雌牛をつれて北海道に引き揚げた。今は元気に将来の酪農を夢みて営々と働いていることだろう。広瀬君は獣医師一筋に研究していたが、極めて真面目な青年と見受けた。カーネーションでの人工授精、病牛の治療、特に大手術一切をまかされていた。如何に支配人から絶大な信頼をよせられていたかがわかる。彼の技術を高く評価してよいだろう。今は残りの二人も帰国し、それぞれの道を歩いているであろう。この長い酪農の

一、はじめに

岡山県畜産会のお世話により、小国町農協の牧場で昭和四十三年四月一日から十二月二十三日までの九ヶ月間実習を行なわせていただきました。研修科目は肉用牛でしたが、酪農についても実習を行なうことができて、搾乳牛管理、分娩牛管理、乾乳牛管理、蹄耕法、草地の機械造成、草地維持管理および肉用牛管理、人工授精、病牛の取り扱い等につき研修することができました。これらの知識を実際に自分の身体で体得できたことを非常に嬉しく思っております。

二、実習先のように

三共牧場で実習のはずでしたが、三共牧場から一キロ程度の所にアングス繁殖の所へ四十二年五月より新しく和牛繁殖センターが設けられたので、この三箇所の牧場で実習することになりました。

A 三共牧場

昭和三十六年に草地の部の天皇杯を受

けた牧場であり、農協職員三名の常駐により管理を行なっている。

小国町より北東一六キロの所で、熊本県と大分県の県境の上に位置し、標高六八〇メートルである。

気温は年平均一〇・八℃、一月平均マイナス一〇℃、八月平均二四・七℃であり、雨量は年間二、二五〇ミリ、その三分の二は五月八月に降る。

土壌は黒色酸性火山灰土壌である。草地は総面積七〇ha、人工草地六〇ha、野草地一〇haである。人工草地は一牧区四ha程度に二三牧区に分けられ、各牧区へ給水槽が設備されている。

そしてジャージー雌牛一二五頭、種雄牛一頭、ヘレホード雌牛二〇頭の総頭数一四六頭が飼われている。

施設としては、搾乳所があり、並列式で片側に四頭、合計八頭入れることができ、一時に四頭搾乳できる。冷却器、ミルクタンクも設備してある。

追込牛舎が二棟あるが、原則として年中舎外飼育のため、病牛の隔離および全牛の検査、ダニ駆除時のみしか用いていない。

家畜管理舎は一棟で、薬品だな、小農具、作業予定記入黑板等が設けてあり、仕事の打ち合せもこゝで行なう。

薬浴槽もあるが現在使用してないとのこと、構造上の問題がある。バンカーサイロは二〇〇トン入りであるが、草不足のため使用してない。

基礎的な勉強がやがて大きな役立てをすることだろう。パイニールにも日本青年がいたが、イリノイ、ウイコンシン、オンタリオ、これ等一流農場には二〜三人の日本人青年が練習生として働いている。

牛舎の中に種雄牛候補が一頭毎にズラッと飼われていたが、既にイタリヤ、ブラジル等に売却済みのものも可成りいたようである。

カーネーションの食堂

食堂は傾斜地につくられており、食事の時間は極めて厳重で、時間におくれると絶対に食わしてもらえない。そこで食事時間前には、仕事途中でも投げ出して食堂の入口に殺到する。男、女は時間差をつけ、女子は三分後、昼食であれば正十二時となるとコックさんによって教会のカネに似た釣金が乱打される。するとわれ先にと食堂内になだれ込み食事にありつく、食事内容は野菜サラダ、ケイキ、ポテト、カケ汁、ミルク、ゼリーで、パンはいくらでも食べてよいことになっており、この食堂では約八〇人が一時間に食事できるだけのテーブルが用意されている。

カーネーションの宿泊施設に一夜世話になり、購入牛二頭を土産にし、カーネーション農場に別れをつけ、シアトル飛行場に向う。水の都シアトルからオリンピヤ山の雪が眼をいるように美しかった。

その他の乾草舎一棟、車庫兼肥料庫一棟、住宅一棟とフォードソン三五馬力トラクター一台とオートバイ二台がある。

B 和牛繁殖センター

鹿児島大畜産科卒業後町村牧場で二年間実習してこられた後藤さん(三四才)が夫婦で管理にあたられている。

草地の総面積は四三haであるが、全て野草地であり四十三年十月四haを草地造成した。

こゝに褐毛和種六四頭、アングス一二頭、合計七六頭飼養されている。全て雌牛である。

施設としては、分娩房三個、群飼部屋二個、飼料庫、給水槽を設けた追い込み牛舎が一棟、重油式乾燥器を設けてある。乾草舎一棟、その他住宅一棟、耕松機一台、オートバイ一台。

C アングス繁殖牧場

ほとんど無人で放置されており、三共牧場の農協職員の一人在管理している。草地は総面積五〇ha程であるが、半分は人工草地で、アングス雌牛五三頭が飼養されている。

施設は開放牛舎一棟と給水槽一個。

阿蘇の噴煙をながめながら

(熊本県阿蘇郡小国町にて)

肉用牛後継者研修生 出田 義国

牧場研修

三、実習内容および考察

四月は三共牧場でのみの実習であり、五月に和牛繁殖センターに牛が入ると三共牧場とセンターとの半々の実習となり、アンガス繁殖牧場は一ヶ月に二日程の実習でした。

A 三共牧場

(一) ジャージ牛管理

この管理法は、草地へ放牧できる夏場(四月十一月)とパドックへ入れる冬場(十二月三月)に大きく分けることができる。

a 夏 場

ジャージ牛を搾乳牛とその他の牛との二群に分けて、三月下旬より時間放牧を始め、四月には全放牧とする。一三牧区中二牧区を採草地として割り当て、一三牧区を輪換放牧を行なう。搾乳は朝夕の二回搾乳であり、搾乳牛には搾乳時一日約五kgの濃厚飼料が与えられる。

草地への放牧も放牧前の刈りにより草量を調べ、頭数に見合う日数搾乳牛の放牧を行ない、その後掃除刈りの役目を

その他の牛群およびヘレホードによって行なわれる。搾乳牛とヘレホードの育成牛以外は濃厚飼料を与えない。種付けは種雄牛の搾乳牛群への混牧により行なわれる。搾乳牛最多数は七〇頭となる。

春は草量も十分あるが、九月に入ると草量の不足をきたし輪換の加速度は増し、十月になると乳量の激減をみる。

原則として季節乾乳であるので、十二月になるとほんの少数以外は全部乾乳してしまう。分婧も屋外の草地で行なわれる。生れている子牛をみつけると、母子供に住宅に近い牧区に連れて来て母牛の管理が行ない易いようにする。乳頭になかなかつかぬ子牛もいるので手搾りし、哺乳の必要がある場合もある。母牛は毎日一回乳房のマッサージと手搾りによる搾乳により、乳房の張りすぎによる苦痛をなくすようにする。子牛は生後一〇日目頃小国町にある育成所へ連れてゆかれる。種雄牛は猛暑時には夜間のみの放牧とし、毎日濃厚飼料五kg程を給与する。

以上のような技術体系がとられているが、気がついた点を左に記す。

- (i) 低能力牛が多い
- (ii) 廃用予定牛もなかなか廃用されず、いたずらに頭数のみ多過ぎることが大きく経営をマイナスにしているし、分婧後一ヶ月目で一日乳量二kg程の牛もおり、全牛の質の向上をはからねばならない。
- (iii) 乳房炎牛が多い

搾乳のすんだ牛は乳房を泥だらけにして泥の中を通らねばならず、乳房炎の原因となると同時に分婧牛の子牛は母牛まかせで一〇日以上も子を母につけておくので、子牛を育成所へ連れて行く時母牛は子牛を捜して鳴きわめき、脱糞してその際乳房を傷つけるのも乳量減、搾乳困難と同時に乳房炎の原因となっている。

(iii) 乳熱の発生

実習期間中二頭が乳熱となり、その内一頭は治療のいかにもなく廃用せざるを得なくなった。乳熱を起すような牛は高能力牛だということ。おしいことだ。分婧間近の牛も廃用予定の駄牛も同一群とされ、搾乳牛群が食べて乏しくなった草を食べなければならず、増し飼ひもされぬのでどうしても栄養状態が悪くなる。歩きまわって採食せねばならぬので、安産ではあるが産子体重は小さく、高能力牛には乳熱の原因となる。やはり分婧前には増し飼ひの必要がある。

(iv) 秋の草不足と共に乳量が激減する

草地管理のところでも述べるが、現在草生産量が限られている以上、計画的に良質粗飼料の確保を考えねばならない。ジャージ牛管理で、その他二ヶ月に一度妊娠判定を行ない授精率の向上をはかっており、四月にBHCα三多を反当り一三kg散布し草地のダニ駆除を行ない、牛体にダニをみつけたら追込牛舎に追い込んでBHCα一・五多を牛体に散布する。

(二) ヘレホード牛管理

a 夏 場

ジャージと同様四月十一月の間全放牧される。子牛の為に増し飼ひをしようとしてもジャージやヘレホードの成牛が食べてしまい、子牛のみが食べられるような構造にうまくならない。頭のみ突っ込む構造では無理なようすで、やはり少し広くなるが、子牛のみ自由に入入りできる程の広さに造らねばならないようだ。

b 冬 場

牛を搾乳牛、分婧牛、乾乳牛、育成牛、肉用牛と廃用予定牛の五群に分け、五つのパドックを作り、その中で越冬することとなる。朝夕二回粗飼料、濃厚飼料を給与し、作業も少数の搾乳と飼料給与のみになってしまいが、良質粗飼料がなく、ほとんどイナワラを給与することとなる。四十二年十一月から来ていた実習生の話では、冬の死亡率が多いとのこと、良質粗飼料の確保がぜひ必要である。

人工授精であるので、発情をみつければならぬのだが、皆よく肥っており微弱発情でなかなかわかり難い。濃厚飼料は与えない。

b 冬 場

廃用ジャージ牛と共に同一パドックへ入れ、稲ワラと濃厚飼料を給与する。

問題点として三共牧場では、ジャージ牛の管理に忙しくてヘレホードは毎日発情の有無も調べる事ができず、適期種付けもなされておらずに成績ががらなし。もっと心細い注意を払う必要がある。

(三) 草地管理

四月に肥料を播くが、堆肥をいっさい用いず、全て金肥である。プロードキヤスターで草地化成を反当り五〇kg散布す

岡山県養鶏産業祭

四月四日、五日

笠岡市笠岡小学校で

養鶏資材・鶏卵肉使用料理の
展示と講演会

講師

木村唯一
清水武彦
高松泰人

る。四・五・六月脱糞防止のため牧柵の修理を行なう。四月前年の枯草を焼き、また裸地化した所へ追播する。八月には夏期実習生を用いて全面的掃除刈りを行なう。

草種はオーチャード、ベレニアル、イタリアン、トルフェスク、ホワイトクローバである。六月と十月に採草地で乾草をつくるが、これは農協のオペレーターが行い、三共牧場には機械を置いてない。完全な機械化体系ができており、モーター刈り、天日乾燥、レーキ集草、ワッシャー、反転、天日乾燥、レーキ集草、ローラーで梱包し自動車へ積み格納と、全く楽である。

小国町の牧場には何処にもこれ等の機械はなく、農協のオペレーターが全ての牧場での乾草調製を行うことになっており、機械の可動率を上げるよう計画されているけれども適期作業ができぬ欠点がある。六月牧草刈り倒し後雨となり、刈り倒した草のみでなくレーキで集めて帯状にしたまま長雨にさらされたので、その下の牧草まで殺すことになってしまった。十月も雨に合い、ペイルしたものを褐毛和種に与えたと、下痢が多発し、結局ほとんど全部が役にたなくなってしまう。

三十六年に天皇杯を得た草地も野草の侵入が著しい。原因として春には十分な草があるため伸び過ぎとなり、反対に秋には極端な草不足で過放牧となって草

を痛めつけることになるから、適正な放牧をする必要がある。また春には野草も盛んに生長するが、牛は牧草のみをたべ、放牧後の掃除刈りもされないで牧草は何度も採食され、野草は繁っている状態がみられる。放牧後の掃除刈りをもっとやるべきだし、秋の草不足のためには秋口に窒素質肥料の追肥が望まれる。

二基のバンカーサイロも用いられておらず、気候的にも恵まれた条件にあるので飼料作物の栽培等も考えてよいのではなからうか。たゞし、こゝの草地を十分にその能力を発揮させ得れば草だけで十分だと思ふ。

(四) 草地の更新

九月にブルドーザーが入り、造成七年

- (i) 目の草地を五ha更新した。
- (ii) ブルドーザーによる抜根、除石。
- (iii) プレーカーによる深耕。
- (iv) 人力で町あたり二トの炭カル散布。
- (v) ハローをかける。
- (vi) ようばha当り三一〇kg、草地化成一、四〇〇kgをプロードキヤスターで散布。
- (vii) 草種子を混合しプロードキヤスターで散布。
- (viii) ローラーによる鎮圧。

傾斜地は雨に会うと土と共に種子も流れて低地にたまり水につかたてしまい、侵食も大きく傾斜地の深耕はあまりよくない。

(五) 蹄耕法

八月二十日より三共牧場の野草地四haを蹄耕法により草地化するため、和牛繁殖センターの全牛七六頭を牧柵を設けて放牧する。ドラム缶半切の給水槽で水を給与する他牛塩を与え、その他は何も与えない。

八月三十一日に三頭の死亡牛を出す。炭疽の疑いが強く、牛の焼却、カルキによる住宅や搾乳所および死亡牛近所の消毒と大変であった。牛の栄養の低下が著しいので牧草地へ移し濃厚飼料も与えるが、一〇日間の移動禁止でセンターへ連れて帰れない。その後も同一症状で和牛二頭とアンガス二頭の合計七頭を死亡させた。

一方蹄耕地へは、今度はアンガス繁殖牧場のアンガス五三頭を放牧した。稲ワラと濃厚飼料を給与していたが、二十九日二頭発病し一頭死亡したので中止の状態となった。

野草地は牛の通路とたまり場、それに濃厚飼料を振りかけた所は裸地化しているが、大きなカヤの株はどうにもならぬ。十月になり全面へ溶融と草地化成を人力散布して播種する。やはり蹄耕のみで裸地化させようとすれば相当の無理がある。ある程度の放牧後に火入れ法等を採用する必要があると思つた。

表4 第2回(6月5日餌付け)における調査結果

週令	飲水量(cc)		飼料摂取量(g)		平均気温(°C)	平均湿度(%)
	1羽1日	1羽1週間	1羽1日	1羽1週間		
1	15	105	10	70	15.0	26.4
2	27	189	16	112	16.9	25.5
3	38	266	23	161	16.5	24.6
4	50	350	30	210	16.7	23.9
5	59	413	35	245	16.8	24.0
6	68	476	37	259	18.4	25.8
7	75	525	39	273	19.2	30.3
8	82	574	41	287	20.0	29.1
9	89	623	42	294	21.2	29.1
10	93	651	45	315	20.6	30.7
11	95	665	48	336	19.8	30.9
12	96	672	51	357	18.8	28.7
13	97	679	53	371	18.3	25.5
14	98	686	57	399	17.2	26.3
15	100	700	60	420	16.7	27.2
16	101	707	64	448	15.8	23.5
17	103	721	67	469	15.4	23.4
18	105	735	69	483	15.2	22.1
19	109	763	72	504	15.1	17.7
20	113	791	75	525	15.1	17.9
21	117	819	78	546	15.0	16.7
計又は平均	12,110		7,084		17.1	25.2

注) 1) 平均気温および平均湿度は舎内の午前9時、午後1時、午後5時における3回の平均値である。
2) 体重は餌付け時35.6g、6日令65.5g、26日令250g、41日令426g、70日令660g、99日令942g、120日令1042g、147日令1310gであった。

表3 第1回(4月19日餌付け)における調査結果

週令	飲水量(cc)		飼料摂取量(g)		平均気温(°C)	平均湿度(%)
	1羽1日	1羽1週間	1羽1日	1羽1週間		
1	14	98	9	63	15.6	23.1
2	26	182	17	119	15.3	21.6
3	38	266	25	175	15.2	19.7
4	49	343	33	231	14.8	20.3
5	57	399	40	280	14.3	22.5
6	62	434	45	315	13.8	22.5
7	67	469	47	329	14.3	25.0
8	71	497	51	357	13.9	25.1
9	75	525	54	378	13.9	24.6
10	79	553	56	392	14.1	24.2
11	82	574	59	413	13.9	23.8
12	85	595	62	434	13.7	24.9
13	86	602	63	441	13.7	27.2
14	88	616	64	448	13.8	30.5
15	92	644	64	448	14.4	27.7
16	98	686	65	455	15.1	29.4
17	111	777	67	469	16.6	29.9
18	124	868	72	504	17.2	29.4
19	136	952	77	539	17.7	26.9
20	148	1,036	83	581	17.8	24.8
21	160	1,120	88	616	18.2	24.7
計又は平均	12,237		7,987		15.3	25.1

注) 1) 平均気温および平均湿度は、舎内の午前9時、午後1時、午後5時における3回の平均値である。
2) 体重は餌付け時37.5g、6日令65g、24日令232g、36日令377g、70日令830g、100日令1,050g、120日令1,250g、147日令1,520gであった。

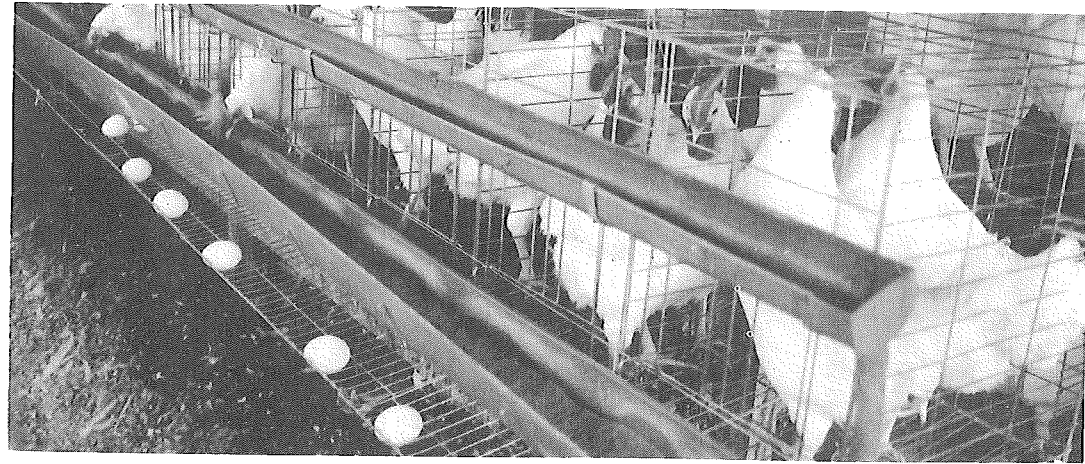


表1 管理方法

育雛方法	第1回調査		第2回調査	
	期間	供用羽数	期間	供用羽数
立体式給温育雛器	日令0~15	125羽	日令0~14	100羽
幼雛ケージ	15~33	104	14~41	80
平飼い鶏舎	33~	20	41~	25

注) 供用羽数は管理の都合により減少している。

表2 給与飼料

飼料名	給与期間
幼雛用飼料	0~28日令
中雛用飼料	28~60
大雛用飼料	60~150

水量は種々の観点から、今後大きな関心がもたれると考えられる。

一、調査方法

供用雛は外国鶏コマインシャル雛を供用し、調査は二回にわたり実施した。第一回調査は昭和四十三年四月十九日の餌付け日から、同九月十三日までの二一週間(一四七日令)、第二回調査は昭和四十

三年六月五日の餌付け日から、同十月三十日までの二一週間(一四七日令)調査した。管理方法は当場の慣行によって行い、その概要は表一のとおりである。給与飼料は当場慣用の育成飼料を使用した。(表二参照) 飲水量は毎日秤量して給与し、翌朝残量を秤量して一日の飲水量とした。

二、調査結果

1 週令別飲水量

第一回および第二回調査における週令別飲水量はそれぞれ表三、四のとおりであり、調査の時期により、飲水量は相当に差があることがわかる。

一羽当たりの餌付けから二一週間の飲水量は、第一回は一二・二三七と、第二回は一二・二一〇とであり、この平均値はおおむね一二・二一五とである。(表五、図一参照)

2 気温と飲水量の関係

気温と飲水量の関係をみると、第一回調査では、一二週令までの気温は比較的鶏の適温に近い数値となっており、一三週令以降は、やや高温の条件であり、飲水量は一五週令以降急激に増大している。(表三、図二参照) 第二回調査では

養鶏試験場だより

卵用鶏雛の飲水量について

技師 妹尾文雄

はじめに

雛の飲水量は、体重、気温、湿度、飼料の形状、飼養方式、その他種々の条件により異なることが予測されるが、飲水量は種々の観点から、今後大きな関心がもたれると考えられる。

前半の気温が逐次上昇し、後半はしだいに低下しており、飲水量は前半は第一回調査のそれと比較して多くなっているのに対して、後半は逆に少なくなっている。(表、図三参照) 従って、従来から考えられている気温と飲水量の関係が密接であることがうかがえる。

3 飲水量

飼料摂取量比

飲水量と、とくに関係が深いと思われる飼料摂取量との比率、すなわち飲水量・飼料摂取量比(%)は第一回調査では、おおむね一・三七一・八二(平均一・五三)であるのに対し、第二回調査では一・五〇一・二二二(平均一・七二)であり、気温の高い時

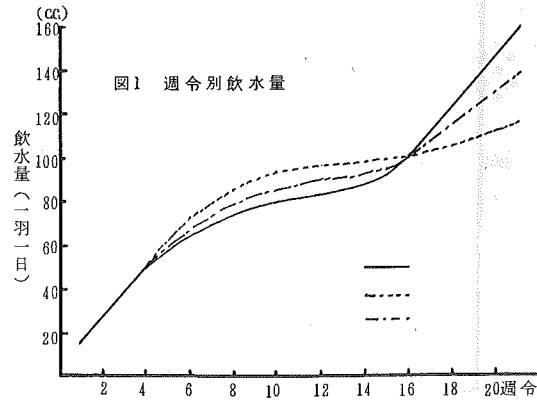


図1 週令別飲水量

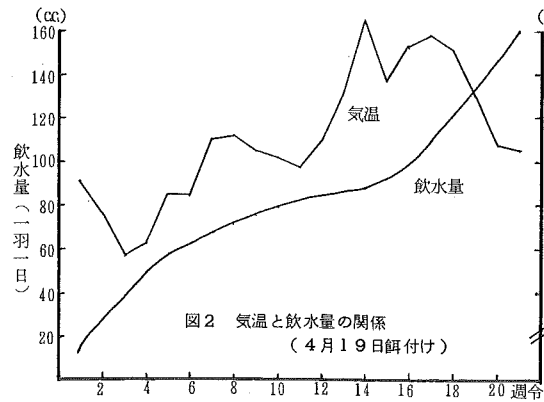


図2 気温と飲水量の関係 (4月19日餌付け)

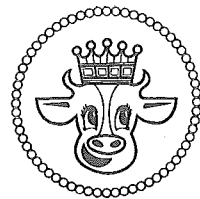
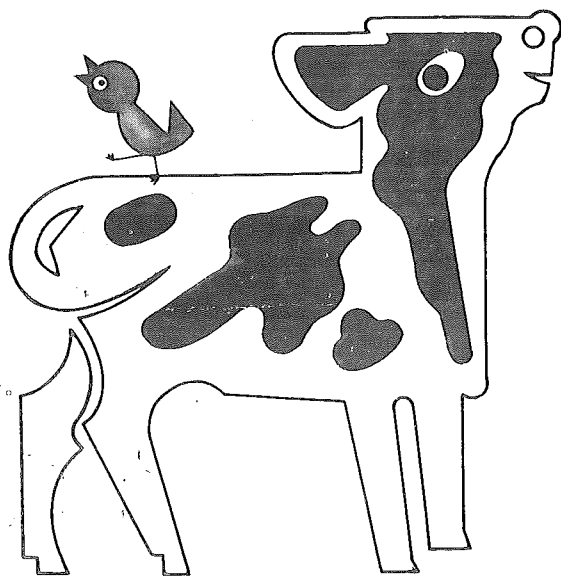
乳は国産 エサは全酪

団結は力！
系統利用は団結の象徴

最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系
(乳牛の飼料は専門的全酪連におまかせ下さい)

主要取扱品目

専管、増産ふすま。外国大麦飼料。
カーフトップ。脱粉飼料。カーフスターター。
幼牛用、搾乳用配合飼料。
その他酪農用飼料資材全般。
市乳、バター、チーズ、練乳、粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協！
全国酪農業協同組合連合会

(本誌の予約申込要領)

誌代 一部 五十円(送料共)
年間予約六百円(送料共)

但し一部購入の場合は贈頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部五十円のサービス価格とす。

集団申込の特典
十部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十五円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を四十円に引き上げます。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法
同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先
岡山市桑田町一丁目二番地
社団法人 岡山県畜産会指導課
(電話) 岡山 8575番
(口座番号) 岡山八五七五番

岡山畜産便り
(三月号)

第二〇巻 第三号
(通巻第百九十九号)
昭和四十四年三月一日 発行

発行所 編集人 惣津 毅士
岡山市桑田町一の二
岡山県畜産会
電話 岡山 八五七五番
振替 岡山下七五番
岡山市内山下七五番
ふじや高速印刷所
電話代表 四九五一番
一部五十円(送料共)

印刷所
定価

●●● 編集室から ●●●

ことしの冬は暖冬異変だと思っていたら、春先になって県南は春雪異変にみまわられている。春が来たのかと思うとまた遠のいたり、まことに異変続きの年である。総合農政に天候までゆさぶられているかのようにある。そまの安値に続いて、今度は畜産のほうにも安値がうつり、和牛子牛がガタ落ちといったところである。作付転換もこれではなかなか実現しそえない。

現実なかなり長期に亘る見通しを確立して進めるのでないと、総合食糧施策をいくら進めようとしても、農家も不安定なものへはなかなか手を出してこない。それにもうひとつは、基盤を拡大する方向へ施策を強力におし進めないと、現状のどうどうめぐりはいつまでも続く。

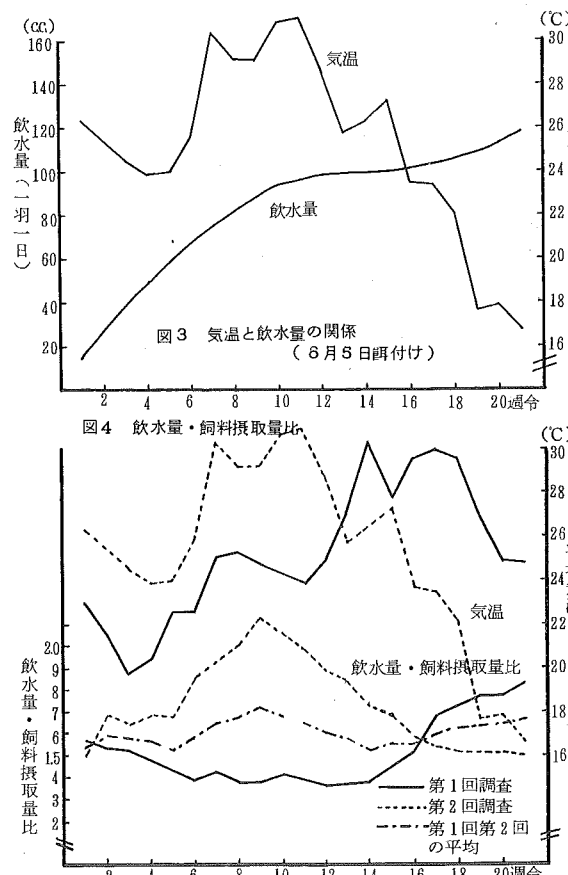


表5 第1回、第2回調査結果の平均

週令	飲水量 (cc)		飼料摂取量 (g)		飼料摂取量
	1羽1日	1羽1週間	1羽1日	1羽1週間	
1	15	105	10	70	1.50
2	27	189	17	119	1.59
3	38	266	24	168	1.58
4	50	350	32	224	1.56
5	58	406	38	266	1.53
6	65	455	41	287	1.59
7	71	497	43	301	1.65
8	77	539	46	322	1.67
9	82	574	48	336	1.71
10	86	602	51	357	1.69
11	89	623	54	378	1.65
12	91	637	57	399	1.60
13	92	644	58	406	1.59
14	93	651	61	427	1.52
15	96	672	62	434	1.55
16	100	700	65	455	1.54
17	107	749	67	469	1.60
18	115	805	71	497	1.62
19	123	861	75	525	1.64
20	131	917	79	553	1.66
21	139	973	83	581	1.67
計	1,2215		7,574		1.61

期は飲水量・飼料摂取量比が大きい傾向を示している。また、第一回第二回調査の平均は一・五二一・七一(平均一・六一)であった。(図四参照)

4 湿度と飲水量・飼料摂取量比
湿度と飲水量・飼料摂取量比の関係についてメリランド農試(一九六二年)によると、摂氏二一度の環境下において湿度四八%、五八%、七〇%、九〇%の場合、飲水量・飼料摂取量比は、それぞれ一・九、一・八、一・七、一・六と、高湿になれば、飲水量・飼料摂取量比が低下するとされているが、この調査では気温との関係もあり、特別な傾向を見出すことは困難であった。

おわりに

この調査では四月、六月餌付けの二回における飲水量であり前述のように飲水量は、餌付け時期によりかなり異なると思われるので、今後の課題としては周年餌付け別の飲水量を調査する必要があると考えられる。

なお、ブロイラーについても調査したがこの成績については稿をあらためて報告する予定である。

“酪農・養鶏機ならおまかせ下さい”

農業機械ならなんでも揃う店

岡山市柳町一丁目一の一七

小六農機株式会社

TEL 岡山 0307代 岡山市外専用 110
営業所 高梁・金川・児島